

## ロマン主義文学と絵画／目次

はじめに

### 第一部 『人間喜劇』と絵画

#### §第一章 「無垢な処女像」の悲劇—『毬打つ猫の店』

- 1 理想の処女像
- 2 ジロデ的女性像
- 3 「窓辺の娘」の構図
- 4 分身としての肖像画

#### §第二章 「聖なる娼婦」の寓話—『知られざる傑作』

- 1 フレノフェールとジロデ
- 2 ピュグマリオン神話
- 3 「聖なる娼婦」の探求

#### §第三章 性別役割の転倒—『ラ・ヴェンデッタ』

- 1 セルヴァンのアトリエ
- 2 ジロデの《エンデュミオンの眠り》
- 3 『サラジーヌ』におけるアドニス像
- 4 《エンデュミオンの眠り》の文学的転換

### 第二部 ロマン主義作家と絵画

#### §第四章 美を永遠化する夢—ゴーチエ『金羊毛』『カンダウレス王』

- 1 ルーベンスの「マグダラのマリア」
- 2 表層の美学
- 3 ゴーチエのピュグマリオン神話解釈
- 4 ブルジョワ女性グレートヒェンの「崇高な破廉恥さ」
- 5 ゴーチエの「石の夢」
- 6 メドゥーサの視線
- 7 創造者が愛好家か—バルザックとの違い

#### §第五章 女を疎外する芸術空間—デボルド=ヴァルモール『画家のアトリエ』

- 1 デボルド=ヴァルモールの生涯とバルザックとの関係
- 2 女性作家が描くアトリエの風景
- 3 女性作家が描く女性画家
- 4 理想の女性画家—オルタンス・オードブール=レスコ
- 5 「アトリエ」の意味

## § 第六章 芸術の聖なる火—サンド『ピクトルデュの城』

- 1 「芸術小説」としての『ピクトルデュの城』
- 2 『彼女と彼』における画家像
- 3 画家のイニシエーションの場としての「城」
- 4 自然が画家を開眼させる
- 5 造形芸術の宝庫としての城
- 6 肖像画家フロシャルデ
- 7 女神ディアナー「母」の探求
- 8 「女性職業画家」が描かれた理由
- 9 「制作」を支える母性

おわりに

初出

参考文献

人名索引